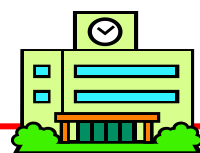


## 言語活動の充実を通して 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る授業を

ポイント1

「的確に理解する力」、「論理的な思考力と表現力」、「伝え合う力」を育成するために、言語活動を授業に取り入れる。

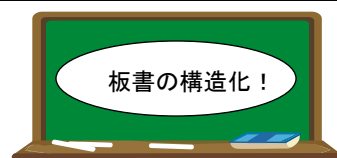
- ◎ 小学校においては、漢字の読み書き、音読や朗読、対話、発表などにより、日常生活に必要な国語の能力の基礎を育成することが大切です。
- また、中学校においては、古典の暗唱などにより言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動により社会生活に必要な国語の能力の基礎を育成することが大切です。
- 高等学校では、討論、解説、創作、批評、編集などの言語活動により社会人として必要な国語の能力の基礎を育成することが大切です。



ポイント2

1時間の授業の中で、指導事項を明確にし、目的に応じた伝え合う活動や、学習内容等を振り返る活動を工夫する。

授業の流れを明確にすること	
導入	<p style="background-color: #fff3cd; padding: 5px;">指導事項を明確に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導事項と関連のある学習課題(問題)を提示する。</li> <li>○ 読み取る視点や調べる観点等を示しながら、学習の見通しをもたせる。</li> </ul>
展開	<p style="background-color: #fff3cd; padding: 5px;">目的に応じた伝え合う力を高める学習を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題(問題)について、自力で解決する場と相互に意見交換する場を設定する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えをノート等に記述させ、グループ等で話し合わせる。</li> </ul> </li> <li>○ 目的に応じた伝え合う力を高める学習を設定することで、自分の考えが深まるようにする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校種や学年の発達段階に応じて「話型表」や「グループでの話し合い方」等の参考となるモデルの活用を図りながら学習させる。</li> </ul> </li> </ul>
終末	<p style="background-color: #fff3cd; padding: 5px;">学習内容等の振り返りを</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容や成果を振り返る場を設定する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この時間で、どのような国語の力を身に付けることができたか、児童生徒が自分自身の学習を振り返ることができるように自己評価等をさせる。</li> </ul> </li> </ul>



## すべての領域で、「言語活動」を通して指導する。

言語活動を通して、どんな力を身に付けさせたいのか、どんな力を活用させたいのか、これからの学習にどう結び付けたいのかなど、学習のねらいを踏まえて、単元の指導計画を立てたり、授業の構成を考えたりすることが大切になります。

### 「書く力」を伸ばすために、次のような言語活動を！

小学校1・2年

★ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。

小学校3・4年

★ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。

小学校5・6年

★ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

中学校1年

★ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。

中学校2年

★ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

中学校3年

★ 関心ある事柄について、批評する文章を書くこと。

高等学校

★ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。

## 自分の考えを記述させる学習場面を設定する。

記述する力を身に付けるためには、記述する機会を多く設定し、記述することに慣れさせる必要があります。また、身に付けた記述する力を実際に活用させることで、より確かな記述する力が定着します。

### 記述する力を身に付けるためのポイント

#### 【指導の基本として】

- ◎ 発達段階に応じて、語彙を豊かにするため適切な教材を取り上げること。
- ◎ 読書活動を推進すること。(家庭との協力を！)
- ◎ 言語環境を整備すること。(辞書、新聞、学校図書館を身近に！)
- ◎ 小・中学校では、ノート指導を徹底すること。

#### 【具体的な手立てとして】

- 目的意識、相手意識をもたせる。
- モデルを示して記述の仕方を身に付けさせる。
- 自分が身に付けた記述する力を実感させる。
- 記述したものを、児童生徒が相互に批評し合える場を設定する。
- 内容や構成だけでなく、表記に関する指導にも気を配る。

学校図書館の活用も図ろう！



記述する力を身に付けることは、「考える力」の育成につながります！